

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

持続可能な発展目標

マリ・クリスティーナ

この一年、様々なところで「SDGsを推進しよう」という言葉を聞きました。ピコ太郎さんが「17 Goals to Save the Glove」とPPAPの替え歌でPRをされ話題になり、10月には経団連も「SDGsを達成することを主眼に企業行動憲章を改定する」と発表しました。

SDGsとは2015年9月、国連本部の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」のことです。人類、地球の繁栄のための行動計画で、17の目標と169のターゲットが定められています。

AWCはこの17の目標のうち「1：貧困をなくそう、4：質の高い教育をみんなに、5：ジェンダーの不平等をなくそう、17：パートナーシップで目標を達成しよう」の4つの目標を推進するために活動を続けていますが、全ての目標が連動しておりますので4つを重要課題としながら残りの13の目標も推進していこうと思います。



ホーイマカヌボンチャイルドケアセンターにて

SDGsは「Sustainable Development Goals」の頭文字で「持続可能な開発目標」と訳されていますが、私はあえて「**持続可能な発展目標**」と訳したいと思います。Developmentは辞書で引くと「発達・発育・進展・発展したもの」と出てきます。開発という意味もあるのですが、この目標を「開発目標」と訳すと、開発途上国の支援の目標というイメージがとて強くなるように思います。この目標は決して途上国支援の目標ということではありません。私たちの住む地球をこれからも長い間確実に発展させるために、私たちが大切に守らなくてはならない目標です。

12番目に「つかう責任、つくる責任（持続可能な生産と消費）」という目標があります。これを聞かされた時に、タイで数年前から提唱されている「足るを知る」という言葉を思い出します。大量生産・大量消費をしてきた私たちの暮らしを戒める目標だと思います。

タイの山岳地帯に赴く度に、自然と共存しながら生活している人々に学ぶことが多いことに気付かされます。私たちの日常を見つめ直さなければならないことを痛感することが度々あります。彼らの暮らしを守る支援を行うということは、必ずしも新しいものを作ったり届けたりということではなく、これまで使っていたものを再発見して大切にしていこうことの重要性を伝えることも大きな発展につながるのではないかと思います。

これからも本当の意味での発展を支援し続ける団体でありたいと考えています。



図書館建設プロジェクト（20周年記念事業）

皆さまのご支援のおかげで「アジアの女性と子どもネットワーク」は昨年創立20周年を迎えることができました。昨年の暮れには20周年記念誌を作成し皆さまにお送りし、その中で少し触れていますが、この20周年記念事業として関西にお住まいのご夫妻がバン・メーランカムスクールに図書館を建設して下さいました。

この地域は貧困家庭が多い上、車で2時間以上かかるチェンマイ市内まで行かなくては本屋がなく、子どもたちは自由に本を買うことができません。いつでも好きな本を読むことができる図書館は、様々な知識を得ることができる場であると同時に、娯楽の場としても大きな意味があります。

図書館の建設には村人が総出で関わりました。2月半ばに90㎡の明るくてきれいな図書館が完成し、3月1日に落成式が行われました。ご寄付くださったご夫妻がテープカットし、子どもたちに図書館が解放されました。これまでの蔵書に加えて神奈川県のある有志の方々から図書購入のご寄付をいただきましたので、「星の王子様」などの児童書や日本語を勉強できる本なども新たに揃いました。

新しい図書館は子どもたちに大変喜ばれています。雨が降りこむ心配はなく、風の通る気持ちの良い場所に建っているため、授業中のみならず休み時間や放課後もここで過ごす子どもたちがたくさんいます。寮の部屋に比べて蛍光灯の数も多く、天井には扇風機も設置されているので、夜間は寮生が集まって、ここで宿題をしているそうです。学びの環境が整っていくことは、子どもたちの将来の可能性を拓けていく確実な一歩と信じています。



落成式には子どもたちは民族衣装で



テープカット



夜は寮生の勉強の場となります

トライブラリープロジェクト

今年も、日本おもちゃ図書館財団のご協力で、チェンマイ県の「愛の家」「ドロップインセンター」、チェンライ県のチャイルドケアセンター4か所、幼稚園2か所の計8か所におもちゃを届けました。



愛の家のチャイルドケアセンターにて

タイは現在、経済の発展が著しく、人々の暮らしも20年前のタイバーツの切り下げの頃と比べると豊かになってきました。しかし北部の山間部に住む山岳民族の人々は、自給自足が難しく、日雇いで何とか生活を維持している状況です。個人の家におもちゃを持っているような子どもはほとんどいません。

どの施設でもおもちゃの箱を開けた瞬間、子どもたちの顔が光を浴びたように輝きます。時間を忘れて夢中になって遊び続ける子どもたちのはじけるような笑顔と歓声がいつまでも心に残っています。

森の中の子ども

先日、チェンライに住むタイ人の友人から「山道をバイクで走っていたら、森の中に子どもがいた。学校に通っておらず、親も不在が多く食べるものにも困っている様子だ」と電話がありました。鬱蒼とした暗く恐ろしい森の中です。近くにはゴミの集積場もあり夜中は真っ暗、集落もありません。

その子たちの親は、昼間は果樹園の見張り役として暮らしていますが、夜は父親は別の仕事をしており、母親と末の赤ちゃんが一緒に行ってしまうため、12歳の兄と9歳の弟が2人きりで森の隅にある果樹園の小屋で寝泊まりしています。この母親は離婚歴があり、今の夫はこの2人の兄弟の父親ではありません。兄は小学5年生、弟は小学2年生ですが、学校までは10km以上あり、送ってくれるおとなもいないため、今年度は休学しています。

兄のほうには、麻薬の売買に関わるような友人が近づいてきており、大変危険です。来年度からはNGOの寮に住まわせて、環境を変えて復学させたほうが良いと友人は考えているようです。そのための支援（寮費が500パーツから1,000パーツ程度/月）を日本から寄付を受けられないかという相談でした。

弟も本当は環境を変えた方が良いのですが、まだ小さいから手元に置きたいと、母親が認めません。

「だったら、ちゃんと面倒見てよ～」と思いますが、そうはいかないのが常…。この子は近所に住む女性が可愛がっており、バイクで学校まで送り届けて食事を食べさせても良いと言っていますが、話し合いは、まだまとまっていません。

このケースは、山岳民族ではなくコンムアンと呼ばれる北タイ人（平地タイ人）です。月の負担から考えると私が個人でも支援できる程度の金額ですが、このようなケースは山のようにあります。まずは出会いのあったこの兄弟の生活を考えるか、両親の自立を促し援助ありきの考え方を考えるのか（もちろん簡単には変わりません）。

友人は、こういうことを放っておけない性格のため、少ない給料をやりくりしておかずを買って届けているようです。公務員として働いているのに暮らし向きは全く良ならず、自分はインスタントラーメンをすすめる日々です。騙されたり、損をしたり、傷ついたりもしていますが、得るものも人一倍多く、生き生きと暮らす友人の姿を誇らしく感じています。（AWCユースリーダー 原 梓）



雨季はぬかるんだ道を通学

おなかいっぱいプロジェクト

今年もアーサーパッターデッキ財団に皆さまからのご寄付を届けました。この団体は、ストリートチルドレンの保護のみならず、スラムの子どもたちが学校に通えるように支援を行っています。学校に



行く前の朝食や、放課後宿題をするために通ってくる子どもたちへの牛乳を配布するなど、子どもたちが栄養不足にならないように努力しています。

かいこプロジェクト

生育が遅れていたバン・メーランカム学校の桑は、先生方の努力で順調に育ってきました。

子どもたちが蚕を飼育できるように養蚕小屋の準備も整いました。



かいこは成長が早いので、子どもたちは楽しみながら養蚕を実施しています。飼育を通して命の大切さなども学んでいるようです。

書き損じはがき ご寄付のお願い

「おなかいっぱいプロジェクト」は、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。

ストリートチルドレンの子どもたちがご飯をおなかいっぱい食べられるように、お手元の書き損じはがきや未使用切手をぜひAWC事務局までお送りください。子どもたちの健やかな成長のためにご協力をよろしくお願いいたします。

AWC事務局：〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

おたがいさまプロジェクト

2018年から新しいプロジェクトがスタートします。シングルマザーの母親が仕事を見つけるまでの2か月間の子どもの通学用バス代や、火事で家が燃えてしまった時の1か月間の食事代等、支援が必要なところに手を差し伸べるプロジェクトです。事態が悪化することを防ぐ事業で、緊急を要する案件に少額の支援を、短期間行います。

チェンライのノンフォーマルエデュケーション教育の先生がカウンターパートで、スラムや山をバイクで走り回り、緊急案件をAWCに連絡し、双方協議の上でできる限り早く対処します。子どもが学校を諦めて退学してしまうことを防ぐことが目的です。困った時はおたがいさまの安心感をタイに届けます。ご協力をお願い申し上げます。



キルトを届けました

千葉県の「支援キルトの会ふーぷ」からキルトのご寄付をいただき、3月3日にチェンライ県の2か所のチャイルドケアセンターに届けました。

タイは暑い国という印象ですが、北部タイは秋冬には朝晩かなり冷え込みます。暖房器具などはなく、どの施設も暑さ対策に床はタイルが敷き詰められています。秋冬の寒い季節、キルトが子どもたちを暖かく包んでくれると思います。



数読 (SUDOKU) の大会

バン・メーランカムスクールの子もたちがチェンマイ県で行われた数読の大会で、小学生部門、中学生部門の両方に優勝しました。現在タイでは教育省が小中学生に数読を推奨しています。



大会に出場した中学生

12月13日～15日にガンペンペット県で北部タイの大会が行われ出場し、初出場ながら中学生が一人銅メダルを獲得しました。全体では44人中、総合18位の成績と大健闘でした。

ご寄付・ご協力御礼

2016年12月16日～2017年12月15日 (敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】黒須春美、小島みゆき、幼き聖マリア修道会、齊藤徹、金井敏、伊藤康子、一二由紀子、神保隆二、阿部潔、高橋清実、花谷泉、佐々木雅祥・律、岡本洋一、奥村徹、鈴木八重子、地球の子どもを応援する会、増井俊樹

【おなかいっぱいプロジェクト】寺尾和子、黒須春美、北爪一夫、吉岡啓子、柳原秀子、六波羅昭、五十嵐千恵子、佐藤志津子、巽司、小島みゆき、高嶋威男、菊池ヨネ子、黒須知二、齊藤徹、青山佳子、沖津久美子、高品都、鈴木勇、尾形登志雄、大濱悦子、山本典子、阿部潔、早川すみえ、日比三枝子、神保隆二、佐々木雅祥・律、大橋真理子、久松亜紀、福島生子、田口美恵子、増井俊樹、原輝美、竹内知珠子、安藤芳子、落合貴美恵

【かいこプロジェクト】阿部潔、増井俊樹、森川洋子、五十嵐千恵子、伊藤たま江、田中雅明、齊藤徹、高品都、神保隆二、出羽明子、佐々木雅祥・律、花谷泉 原梓、山本博子

【トライブラリー プロジェクト】一般財団法人 日本おもちゃ図書館財団、阿部潔、佐々木雅祥・律、安元隆子、増井俊樹

【AWC基金】西川公久、藤田美江子、伊藤源子、坂口育子、今さら会、山本美恵子、柴田日出子、酒井ユリ子、高橋幸子、川辺次郎、中村田鶴子、原光代、ファイバーリサイクルネットワーク、秋元千代子、朝廣玲子、八島恵理、池山洋二、久松亜紀、横濱ワイナリー、国際交流ボランティア「みなと」グループ、ソロプチミスト横浜西、(株)イムテックスメディカル、増井俊樹、原梓、清水雅子、横浜インドセンター、矢ヶ崎佐和子、大野佐和子、山本博子、マリクリスティーナ

【図書館建設】竹田英一・啓子、小林みなえ、増井俊樹、

【書き損じはがき】伊東喜代治、川口幸博、南恭子、中川順子、荒木いぶき、小島みゆき、大濱悦子、支援キルトの会ふーぷ、鶴岡亨彦、氏家順子、岡田靖子、平野和子、伊藤康子、中村田鶴子、ガールスカウト山梨県連盟、齊藤徹、金井敏、村田順子、阿部潔、堤澄子、佐藤良子、岡部淑夫、菊池ヨネ子、川辺次郎、半田あや、渡辺和美、朝廣玲子、小嶋紘子、増井俊樹、横田京子、馬淵信彦、宮本ちえ、野尻悠紀子、国方洋子、高品都、高安照代、堀江昭、重原文明、加藤弘子、大槻裕美、大江絵美、竹田英一・啓子、巽司、金子セツ子、宮崎恵子、山本佳世、鈴木静香、国際ソロプチミスト横浜西、松村絹子、内田淑子、津田、池谷朋子、関野真二、横浜インドセンター、木口真由美、安藤芳子、落合貴美恵、林恵子、藤田美江子、茨木夢子、田口美恵子、支援キルトの会ふーぷ、糠沢佐知子、山本博子、横浜市民活動支援センター、熊谷真也、板垣慈、国際交流ボランティア「みなと」グループ
※記入漏れ、間違いなどがございましたら事務局までご連絡下さい。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆さまのご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-0-4109

口座名：AWC



Asian Women & Children's Network

発行元：アジアの女性と子どもネットワーク 発行責任者：山本博子 編集担当：安藤芳子、原梓

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39

尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/FAX 045-650-5430 E-mail : awc@h6.dion.ne.jp